

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 394 号	氏名	AYON HARO, ESPERANZA RAQUEL
学位審査委員	主 査	池田 通	
	副 査	林 善彦	
	副 査	中山 浩次	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、破骨細胞形成を抑制されているインターフェロンγの、炎症組織における破骨細胞形成への影響を明らかにしようとしたものである。歯周病などの炎症組織では非炎症組織とはインターフェロンγの作用が異なる可能性に着目しており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 マウスに LPS を注入することで炎症性骨吸収を惹起した <i>in vivo</i> の実験と、LPS 存在下で骨髄マクロファージからの破骨細胞の影響を見た <i>in vitro</i> の実験により、インターフェロンγの影響を調べており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 LPS により惹起された炎症性組織では RANKL 陽性細胞が増加し、この状態でインターフェロンγを投与すると骨吸収が促進された。また <i>in vitro</i> で RANKL により TRAP 陽性単核細胞に分化した前破骨細胞では、LPS 存在下でインターフェロンγ刺激により破骨細胞形成が促進された。 <i>In vivo</i>、<i>in vitro</i> のどちらの実験においても、インターフェロンγによる破骨細胞形成の促進は抗 TNFα抗体添加により抑制された。本研究ではインターフェロンγは破骨細胞形成を抑制するばかりでなく、歯周炎などの LPS 存在下の炎症状態では破骨細胞形成を促進する可能性が示されている。この促進には TNFαが重要であることも示されているが、詳しいメカニズムは依然不明である。今後のさらなる研究の発展が期待される。</p> <p>以上のように本論文は歯周病学の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			